

**第1問** 総合。テーマは「戦士」。本試験同様、メモは使っているが会話文がリードなので旧センター試験に近い。考古が多いのは近年珍しい。

問1 ア：朝鮮式山城も防御機能だが弥生時代ではない(時期判断)。イ：方広寺鐘銘事件。

問2 事実の正誤ではなく「考えるために有効な」方法を選ぶ。まさに新傾向問題。

X：b. 墳墓であれば祭器が、住居ならば実用品が、石器の集積所ならば石器の材料が多く見つかる可能性がある。a. 石器の材質の産出地から分かるのは、人間の移動や交易範囲である。

Y：c. 石器の年代からは石器の性格は分からない。d：石器の形状や使用痕跡から、どのように使われたのかが分かる。

問3 X：史料の冒頭にある通り。良源は天台座主であるから「山上」とは比叡山延暦寺を指す。

Y：延暦寺の僧兵の強訴が繰り返されたのは院政期。設問文に「970年」とあるのを見落とさない。

問4 17世紀後半であるから、蘭学①も『群書類従』②も時期が異なる。④『本朝通鑑』は幕府の命で林羅山父子が編纂した。

問5 X：直接的には徴兵制度をさすが、徴兵告諭(問6)にあるように徴兵制度は四民平等と一体。

Y：脱亜論の初出は1885年で、甲申事変後の国家意識の高揚を要因とし、時期が違う。

問6 a・b：徴兵告諭は教科書にある基本史料だが、「然るに太政維新」より前は掲載されていないので、初見史料の読解問題。「有事の日、天子之が元帥となり…農たり工たり…」とある。

c：血税騒動。d：18歳ではなく20歳。

**第2問** 古代の雑穀がテーマの問題。生徒の発表で構成される形式で、その発表を丁寧に読まないで正解が導けない設問があり、時間を要する。

問1 ①弥生時代以降も(現代も)狩猟や採集は行われている。③日本では青銅製農具は使用されていない。

④租は収穫量の3割ではなく3%。

問2 正誤ではなく解答の根拠か否かを問う、新傾向の問題。X：bの「支うることを久しくして敗れず」(長期保存できて腐敗しない)は飢饉対策に合致するが、aの雑穀と稲の交換比率の規定は無関係。

Y：aから百姓・雑色から集めたことが分かる。bは大名田堵の経営の説明である。

問3 表2を見れば、Xは正しく、Yは誤っていることが分かる。表1を見ると畿内から小麦は納入されているが、下線(c)にあるように、だからといってその小麦が調だとは限らない。

問4 年代の特定できない時代順問題。Iは部民制(6世紀)、IIは初期荘園、IIIは寄進による荘園の説明であり、I→II→IIIは明らか。

問5 a：Aで粟は「蒸したり粥にして食べられていた」、Bで麦は「日常の食料や調味料の原材料として」とあるから誤文。b：Aで「国司を通じて」Bに「国司が百姓に教え諭す」とあるから正文。c：Bに「百姓が…馬の飼料として売却してしまう」とあり誤文。d：A「租の代わりに粟」とあり正文。

**第3問** 中世の法制史。ここでも会話文。ただし調べ学習的な要素はゼロ。

問1 イ 本所法は難しいが惣掟が、惣村の自治的な法であることが分かっているならば消去法で解決する。

問2 複数の史料を使っただけの出題。ただし短い。a・b：史料1に「禁制せらるれば還って人の愁嘆たるべきにより、この沙汰なし」とある通り。人身売買=悪=禁止と決めつけては行けない。c・d：史料2の「倉廩を有するの輩」で富裕者と判断できる。この出挙は時代からしても私出挙。

問3 ここも年代の確定じづらい時代順問題。Ⅰは綸旨の乱発は建武の新政（南北朝）、Ⅱは元寇（鎌倉）、Ⅲは『樵談治要』の説明で「將軍」は足利義尚（室町）。Ⅱ→Ⅰ→Ⅲ。

問4 ①地下請は年貢納入。③史料3は念仏で終わっているが、この史料は莊園領主の日記であり「村人」ではない。史料の位置（視点）を見落としてはいけない。④祭礼は（あっても）史料には書かれていない。

問5 X：平家物語は隨筆ではない。Y：大唐米はインディカ種で、名称からも推測できるように輸入種。

#### 第4問 近世の戦乱や災害に関する問題。

問1 X：島原の乱や長州征伐は「幕府や藩による軍事動員」。Y：下関戦争は「外国から攻撃」。

問2 時期による正誤問題。明暦の大火の時の將軍は4代家綱。①七分積金は寛政改革（家斉）。②町火消と④小石川養生所は享保改革（吉宗）。定火消なら家綱。

問3 a：「在々より取り立て候迄は延々」「一万石以上の分は領主より取り替え候て」とある。一万石以上とは大名のこと。b・d：灰砂除去として40万両を集め、16万両はその用途に、残り24万両は「城北の御所造らるべき料に残し置き」とある。c：人口ではなく石高に応じて徴集している。

問4 ②イギリス公使はオールコックとパークスでともに殺害されていない。

問5 Ⅰ（二宮尊徳）は天保期、Ⅱ（青木昆陽）は享保期、Ⅲ（宮崎安貞）元禄期。Ⅲ→Ⅱ→Ⅰ。

#### 第5問 またもや会話文と調べ学習。とはいえ、歴史上の人気人物の虚実をテーマにすると、なかなか面白い設定で、ぜひ本試験でやってほしかった。

問1 単純な知識問題。特に解説は不要だろう。

問2 ここも年代暗記は必要ない。幕末、Ⅰ（安政の五カ国条約）で貿易が始まるからⅡ（五品江戸廻送令）が必要になる。Ⅲ（日朝修好条規）は明治初期期。Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ。

問3 X：政体書には議会設置や立憲政体樹立宣言はない。Y：死後の史料である可能性は高い。

問4 ①坪内の写実主義に民権運動と直接の関係はない。③自然主義の自然は「田園生活の美しさ」ではない。

④『国民新聞』はナショナリズムが特徴で、反戦傾向ではない。

#### 第6問 近現代の外交史。

問1 X：「帝国の立場から見れば、大体に於いて最小限度の要求」とある。Y：「英国は別段八釜しい異議は唱へなかつたろうと思ふ」とある。

問2 すべて時期による正誤。②野間宏の戦争文学は戦後。③『麦と兵隊』は戦時中。④正岡子規は明治。

問3 すべて1194年の出来事なので年代暗記では解けない。流れの理解が必要。独ソ不可侵条約に合わせて日本は日ソ中立条約を結ぶ(Ⅲ)が、ドイツが突如独ソ戦を開始するとこれに呼応して満州ソ連国境に大軍を投入したのが関特演(Ⅰ)。しかし対ソ開戦は断念して南進に方針を移し、アメリカの警戒と経済封鎖をまねき、ハル・ノート(Ⅱ)を提示された。Ⅲ→Ⅰ→Ⅱ。この時期の時代順は頻出。

問4 ヨーロッパの地図が出るのは非常に珍しい（史上初かも）。X：カイロ Y：ポツダム

問5 ①平和条約は現在も締結されていない。②日本は米国と結んだ西側の一員。④OECD加盟は60年代であり、日ソ基本条約によって可能になったのは国際連合加盟である。

問6 b：大江健三郎のノーベル賞は90年代。c：「千と千尋の神隠し」の受賞は2002年。

問7 ③経済安定九原則は戦後の超インフレの是正を求めており、財政拡大とは逆である。